

2013年4月26日
東京ガス株式会社

2013年3月期 決算説明会

主なQ & A

Q 1 : 2012年度のガス販売量実績について、前年度と比較してどうだったのか？

A 1 : 家庭用、業務用については気温影響による対前年度減はあったものの、概ね前年並みの販売量を計上した。

工業用のうち、一般工業用については稼働減に伴い販売量が減少した。発電専用については、電力販売スキームを変更したことによりニジオによるガス販売量は減少したものの、千葉鹿島ラインの新規稼働に伴う発電需要が増加したこと等により、大きく増加した。工業用全体では対前年 199 百万 m³、2.9%の増加となった。

Q 2 : 来年度の利益水準について聞きたい。

A 2 : 経常利益では対 12 年度比+76 億円の 1,550 億円を計画している。12 年度の利益を押し上げた気温影響による利益増や、営業外収支、特別損益に含まれる一時的な利益は剥落するものの、原料費調整制度に基づく期ずれ（スライドタイムラグ）が 305 億円改善することなどが主な要因である。

Q 3 : 電力事業の今後の展望について聞きたい。

A 3 : 自社グループで今後新規に建設する発電所としては、扇島パワー3号機までが決定しており、これにより当社の発電能力は、他社持分を含め約 240 万 kW に達する見込みである。今後についても、首都圏に安定的に、かつ、可能な限り低廉に電力を供給すべく努力していく。

Q 4 : 今回増配を決定した背景は？

A 4 : 当社は、財務方針において総分配性向（連結当期純利益に対する配当と自社株取得の割合）の目標を、2020 年度に至るまで各年度 6 割程度とし、配当と自社株取得により株主還元を行っている。その内訳として、収支動向を勘案した上で、1 株当たりの配当金を 1 円増額し、経営の成果を株主の皆さまへ配分するものである。

Q 5 : 料金引き下げについて、その内容を教えてほしい。

A 5 : 営業努力の成果であるガス販売量の増加および、これまで継続的に進めてきた経営効率化努力を勘案し、平成 25 年度中にお客さま還元を実施すべく、小口料金改定実施に向けた検討を行う。具体的な時期・改定内容については、収支状況がある程度見通せる上期決算発表の時点を目途に、検討を進めるものである。 以上